

コラム 主治医の処方箋（その7）

知っておきたい薬の知識—高齢者における薬の体内動き、飲み合わせ

高齢者の多くは疾患を患っており（75歳以上で80%）、早く治して平穩に日常生活を送りたいと思っておられ、そのような思いは、施設に置かれた七夕の短冊に見受けられました。

健康に不安を抱える高齢者は、一時たりとも薬を手放すことができないものですが、此の4月より一部の薬がネット購入することができ、また医療の現場において貴重な薬が使えるようになり、高齢者にとっては非常に便利になったと思われます。

しかしながら、高齢者の薬の服用については、非常に注意が必要です。少なくとも次のようなことを何方も知って頂きたいと思います。

①高齢者の身体機能の加齢による低下（老化現象）

年をとるに伴い、人の身体機能（すべての器官）は徐々に低下する。特に呼吸器系、心臓血管系、腎臓の機能で顕著で、高齢者では成人の30～40%低下し予備能が著しく低下するので僅かのストレス（負荷）が掛かっても、それらの器官の機能障害、疾病を起こしやすい。

②薬物の体内動き（吸収から体外排泄まで）（図1）

薬の体内への取り込み経路には、主にA）経口方法 B）注射、皮膚貼付方法、C）坐薬方法がある。

経口方法および坐薬方法により投与された薬は、食べ物と同様に、まず1）腸管より吸収され、全て門脈を通して肝臓に運ばれる。2）肝臓で一部は分解、代謝、あるいは解毒された後、大静脈を通して心臓に流入するが、一部のものは胆道を通して腸管に排泄される。

心臓に流入した薬は、動脈血とともに全身の器官に運ばれ3）各器官の細胞に作用する。また腎臓にも運ばれて、4）腎臓より濾過されて体外に尿と一緒に排泄される。

また、腸管より吸収されなかった薬、および肝臓より排泄されたその代謝・分解物は便と一緒に体外に老廃物として排泄される。

しかし、高齢者では各器官の機能が老化により低下しているため、薬は体内に残留（血中、組織内濃度が高くなる）するので、その作用が成人より増強されやすく、障害（副作用）を惹き起こすことがある。

③薬の飲み合わせ（薬の併用）

臨床上、薬の治療効果を高めるために（相乗、相加作用）、また副作用を少なくするために（減弱作用）、複数の薬を同時に服用することがよく行われる。

高齢者は複数の疾患を抱え、それぞれの疾患に効く薬を同時に長期間にわたり服用することが多いため、併用した薬の作用を減弱し、あるいは障害（副作用）を惹き起こすことがないよう注意が必要である。（図2）

例えば、心臓の治療薬の中には、肺、気管支にも作用して、逆に気管支の状態を悪くすることがある。

高齢者において、複数の疾病に罹り複数の薬を服用する時には、薬の専門家（医師、薬剤師などの専門家）に服用の仕方（薬の飲み合わせ、服用量などが適切か）を是非ご相談ください。また、病院を受診する時には薬剤手帳を必ず持参、提示して、新たな薬を処方してもらうようにして下さい。

（河野施設長）

図1. 薬の体内の動き

（吸収、代謝、作用、排泄）

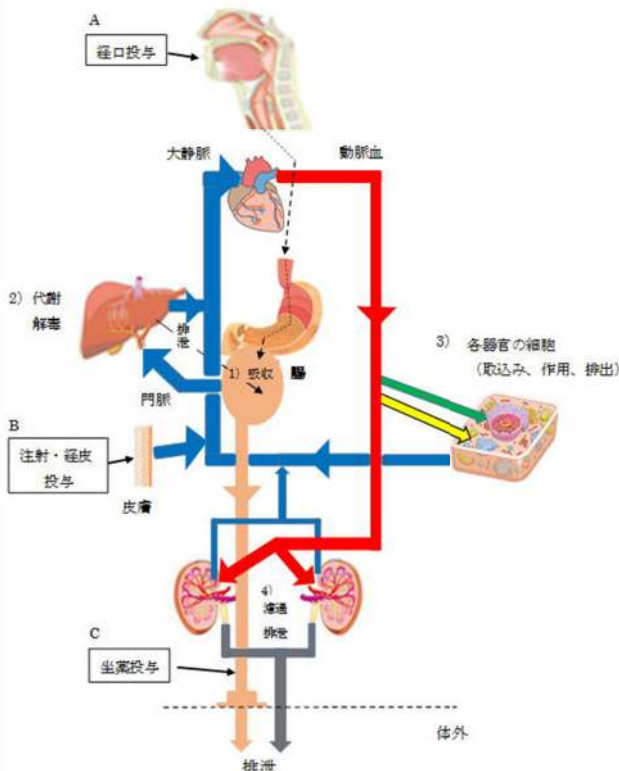
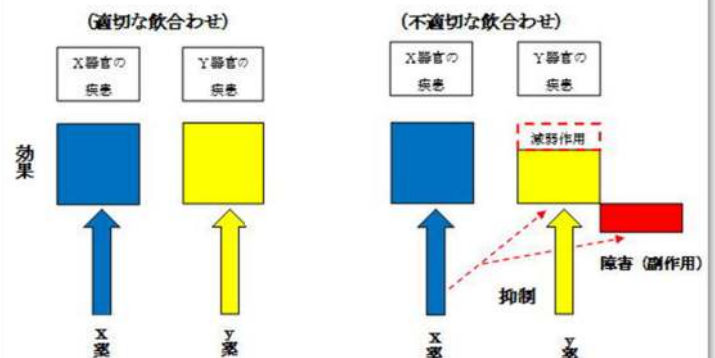


図2. 薬の飲み合わせと作用



介護支援専門員 浜田